

イワヒバ

Selaginella tamariscina

イワヒバ科

小笠原諸島

EN

環境省

【形態・生態】

常緑性シダ。多数の根が集合して仮幹をつくり、その先端から葉状の枝を放射状に数十枚広げる。枝は斜上してさらに2～3回羽状に分裂する。枝には小さな葉が折り重なって密生する。葉は卵状披針形で辺縁は微鋸歯縁、先端は毛状となる。乾燥すると葉は内側に巻き込んで球状になる。

【分布の概要】

小笠原諸島、伊豆諸島、北海道、本州、四国、九州、南西諸島；東アジアから東南アジア

【小笠原諸島における生育環境】

露出した岩上または岩壁に着生する。乾燥には強い。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

園芸目的の採取やノヤギによる食害のほか、外来植物による被圧の影響に注意することが望ましい。

【関連文献】

岩槻邦男, 1992; 豊田武司 (編), 2003.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
1	0	2	1	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	3	0	0

判定基準

ACD



(執筆: 加藤英寿・大場秀章)

フノハナワラビ

Botrychium ternatum

ハナヤスリ科

小笠原諸島

CR

環境省

【形態・生態】

冬緑性シダ。地表近くから栄養葉と孢子葉が分かれて出る。栄養葉は長さ3cm以上の柄があり、葉身は3出3～4回羽状に深裂、裂片は鈍鋸歯縁。本土では、孢子は秋から冬にかけて成熟するが、南硫黄島では真夏に成熟することや葉の形状などから別種の可能性もあり、分類学的再検討が必要である。

【分布の概要】

小笠原諸島、北海道、本州、四国、九州；東アジア

【小笠原諸島における生育環境】

南硫黄島上部の開けた露岩地の隙間に生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

滅多に人が訪れることができない場所に自生するため、特に保全上の留意点はない。

【関連文献】

田川基二, 1983; 岩槻邦男, 1992.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
1	0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

D



(執筆: 加藤英寿・大場秀章)

イオウジマハナヤスリ

Ophioglossum nudicaule

ハナヤスリ科

小笠原諸島

EX

環境省

EX

【形態・生態】

夏緑性シダ。孢子葉は長さ 1.5 ～ 5cm で、孢子囊穂の部分は 3 ～ 7mm になる。根茎は塊状で根を持つ。地上部には栄養葉と孢子葉が生じる。栄養葉は小さく、長さ幅ともに 3 ～ 18mm で、楕円形から円形となり、柄ははっきりしない。日当たりの良い草地に生育する。

【分布の概要】

日本では小笠原諸島、伊豆諸島の記録がある。国外では世界各地に分布する。

【小笠原諸島における生育環境】

不明である。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

小笠原諸島（硫黄島）と伊豆諸島から記録されているが現状は不明。硫黄島では外来植物の蔓延が著しいため、それらの植物による被圧に注意することが望ましい。

【関連文献】

Ohba, H., 1971; 岩槻邦男, 1992.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
0	0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

協議による



© 東京大学植物標本室 (TI)

(執筆: 加藤英寿・大場秀章)

コブラン

※備考 (p. 300)

Ophioglossum pendulum

ハナヤスリ科

小笠原諸島

CR

環境省

EN

【形態・生態】

常緑性シダ。葉は帯状で質は厚く、通常は長さ 10 ～ 50cm で、ときに 1m を越えることもあり、幅 2 ～ 6cm、単葉または 2 又に分かれ、ねじれることが多い。孢子葉は長さ 8 ～ 20cm。樹幹に着生して下垂する。

【分布の概要】

小笠原諸島、南西諸島；旧世界の熱帯地域

【小笠原諸島における生育環境】

湿った林内に生育する。1943 年以降、未確認状態が続いていたが、2012 年に生育が確認された。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

園芸目的の採取や自生地の乾燥化、外来植物による被圧に注意することが望ましい。

【関連文献】

Ohba, H., 1971; 田川基二, 1983; 岩槻邦男, 1992.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
0	0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

協議による



(執筆: 加藤英寿・大場秀章)

オガサワラリュウビンタイ

Angiopteris boninensis

リュウビンタイ科

小笠原諸島



環境省

【形態・生態】

常緑性シダ。葉身は2回羽状複葉で、長さは2mを超える。小羽片は長さ13～16cm、幅約1cm、小脈の間に片縁から偽脈が伸びる。小笠原の固有種であるが、南西諸島からフィリピンに分布するホソバリュウビンタイ *A. palmiformis* と同種とされることもある。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生育環境】

湿った林内や谷筋に生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地の乾燥化や外来植物による被圧に注意することが望ましい。また、父島ではノヤギの食害による影響が懸念される。

【関連文献】

Ohba, H., 1971; 岩槻邦男, 1992; 豊田武司 (編), 2003.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
0	8	1	3	1	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	4	0	6	3	0

判定基準

E



(執筆: 加藤英寿・大場秀章)

リュウビンタイモドキ

※備考 (p. 300)

Marattia boninensis

リュウビンタイ科

小笠原諸島



環境省



【形態・生態】

常緑性シダ。根茎は塊状で直立し、そこから数枚の葉が出る。葉柄は太く多肉質で緑色をしており、基部に膜質の鱗片が付属する。葉は革質で2～3回羽状複葉、長さは2mを超える。小羽片は長さ6～15cm、幅約1～2.5cm、小脈の間に偽脈はない。孢子嚢群は小羽片の外縁付近で葉脈上に2列ずつ並ぶ。混生することが多いリュウビンタイに似るが、互いに隣接する孢子嚢が合わさった単体孢子嚢群であることから区別される。小笠原の固有種であるが、フィリピンなどに分布する *M. ternata* に近似し、同種とする見解もある。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生育環境】

湿った林内や谷筋に生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地の乾燥化や外来植物による被圧に注意することが望ましい。

【関連文献】

Ohba, H., 1971; 岩槻邦男, 1992; 豊田武司 (編), 2003.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
0	10	2	2	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	10	2	0

判定基準

協議による



(執筆: 加藤英寿・大場秀章)

シロヤマゼンマイ

Osmunda banksiifolia

ゼンマイ科

小笠原諸島 **EN**

環境省

【形態・生態】

常緑性シダ。根茎は斜上または直立。葉は長さ1～1.8m、単羽状複葉で革質。羽片は線形で長さ15～35cm。孢子嚢は中央より下の羽片につく。これらの羽片は通常の羽片よりも幅が狭く、長さも半分に近い。下部の羽片は短い柄を持ち、辺縁が肥厚して大きな鋸歯がある。

【分布の概要】

小笠原諸島、本州、四国、九州、南西諸島；アジアの熱帯・亜熱帯に広く分布

【小笠原諸島における生育環境】

沢筋沿いの斜面や湿った崖に生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地の乾燥化や外来植物による被圧、ノヤギの食害による影響が懸念される。

【関連文献】

Ohba, H., 1971; 田川基二, 1983; 岩槻邦男, 1992.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
0	0	0	1	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	1	0	0

判定基準

E



(執筆: 加藤英寿・大場秀章)

ハハジマホラゴケ ※備考 (p. 300)

Cephalomanes boninense

コケシノブ科

小笠原諸島 **VU**環境省 **VU**

【形態・生態】

常緑性シダ。根茎は短く直立し、葉を束生する。葉柄はほぼ無毛だが、基部には褐色の毛がある。葉身は長楕円状披針形をしており、2～3回羽状複葉で、長さ5～12cm。葉身の細胞の多くは長さが幅の2倍を超え、細胞壁が連続しているため偽脈のように見えることもある。孢子嚢群は羽軸の両側に1列ずつ並ぶ。ヘゴやマルハチの樹幹に着生する。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生育環境】

湿った樹林内のヘゴやマルハチの樹幹に着生する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地の乾燥化や外来植物による被圧に注意することが望ましい。

【関連文献】

Ohba, H., 1971; 岩槻邦男, 1992; 豊田武司 (編), 2003.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
1	2	1	0	1	0	3

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	2	1	0

判定基準

E



(執筆: 加藤英寿・大場秀章)

オニホラゴケ

Cephalomanes obscurum

コケシノブ科

小笠原諸島



環境省

【形態・生態】

常緑性シダ。根茎は短く横に這い、相接する。葉柄には平伏した黒褐色の軟毛がまばらに生じる。葉身は卵形で2～3回羽状複葉、長さ2～15cm。小羽片の裂片は縁に鋸歯があり、深く切れ込み、その先端に孢子嚢群がつく。地面または岩壁に着生する。

【分布の概要】

小笠原諸島、南西諸島；アジアからオセアニアの熱帯・亜熱帯、ポリネシア

【小笠原諸島における生育環境】

父島の樹林内の地面または岩壁に着生する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地の乾燥化や外来植物による被圧に注意することが望ましい。

【関連文献】

Ohba, H., 1971; 田川基二, 1983; 岩槻邦男, 1992.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
1	0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

D



© 東京大学
植物標本室 (TI)

(執筆: 加藤英寿・大場秀章)

オガサワラホラゴケ

※備考 (p.300)

Crepidomanes acuto-obtusum

コケシノブ科

小笠原諸島



環境省

【形態・生態】

常緑性シダ。根茎は黒い短毛に覆われ、長く這い、葉をまばらにつける。葉身は2～3回羽状複葉で、長さ2～5cm。孢子嚢群は裂片頂部に生ずる。裂片の形の違いにより、アオホラゴケ *C. latealatum* と区別される。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生育環境】

湿った岩やコケのついた樹幹などに着生する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地の乾燥化や外来植物による被圧に注意することが望ましい。

【関連文献】

Ohba, H., 1971; 岩槻邦男, 1992; 豊田武司 (編), 2003.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
0	5	2	0	0	0	1

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	5	1	0

判定基準

E + ACD



(執筆: 加藤英寿・大場秀章)

ムニンホラゴケ

Gonocormus bonincola

コケシノブ科

小笠原諸島 EN

環境省 EN

【形態・生態】

常緑性シダ。根茎は細く、長く這ってマット状になる。葉は単葉で薄く膜質。葉身は長さ7～15mm、うちわ形で葉の縁は細かく切れ込む。孢子嚢群は葉や葉脈の端に生じる。日本列島から世界各地に広く分布するウチワゴケ *Crepidomanes minutum* と同種とされることもある。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生育環境】

湿った岩や樹幹などに着生する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地の乾燥化や外来植物による被圧に注意することが望ましい。

【関連文献】

Ohba, H., 1971; 岩槻邦男, 1992.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
4	2	3	0	0	0	2

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	6	0	0

判定基準

ACD



(執筆: 加藤英寿・大場秀章)

ゼニゴケシダ

Trichomanes tahitense

コケシノブ科

小笠原諸島 VU

環境省

【形態・生態】

常緑性シダ。根茎は黒褐色の毛が密生し、長く這い、葉をまばらにつける。葉は無柄で、葉身は円形で径1～2cm。若い葉は膜質で、古い葉は厚みが増して暗緑色になる。孢子嚢群は主脈の先につき、葉の縁に突出して生じる。包膜はコップ状。

【分布の概要】

小笠原諸島、南西諸島；東南アジアからポリネシアの熱帯各地

【小笠原諸島における生育環境】

薄暗い樹林内の湿った岩上や樹幹などに着生する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地の乾燥化や外来植物による被圧に注意することが望ましい。

【関連文献】

Ohba, H., 1971; 倉田悟・中池敏之(編), 1987; 岩槻邦男, 1992.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
3	0	0	1	0	1	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	4	1	0

判定基準

E



(執筆: 加藤英寿・大場秀章)

メヘゴ ※備考 (p. 300)

Cyathea ogurae

ヘゴ科

小笠原諸島

EN

環境省

EN

【形態・生態】

常緑性シダ。茎は木生で、高さ4mに達する。葉身は2回羽状複葉で、小羽片の切れ込みは深い、裂片どうしの間隔は狭い。葉柄は光沢のある紫褐色で、しばしば上面が緑色になる。葉柄は脱落后も基部が茎についたまま残る。林内で群生する傾向があり、点在することは少ない。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生育環境】

父島のみに自生する小笠原の固有種で、林内のやや湿ったところに生育する。より高木になるヘゴやマルハチに比べて陰湿な場所に生えることが多い。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地の乾燥化や外来植物による被圧、ノヤギの食害による影響が懸念される。

【関連文献】

Ohba, H., 1971; 岩槻邦男, 1992; 豊田武司 (編), 2003.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
0	5	2	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	3	4	0	0	0

判定基準

C



(執筆: 加藤英寿・大場秀章)

エダウチムニンヘゴ

Cyathea tuyamae

ヘゴ科

小笠原諸島

VU

環境省

【形態・生態】

常緑性シダ。茎は木生で、不規則に枝分かかれし、高さ4mに達する。葉は淡い緑色で長さ1m以上になる。葉柄は非常に短く、幹の上部では脱落后に葉柄基部のとげが残る。フィリピンに自生する *C. callosa* に類似する。ヘゴ *C. spinulosa* とは小羽片や孢子嚢群などの形態が似ているが、幹から不規則に枝が分出する点異なる。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生育環境】

南硫黄島の山頂近くの雲霧林に生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

滅多に人が訪れることが出来ない場所に自生するため、特に保全上の留意点はない。

【関連文献】

Ohba, H., 1982b, 1983a; 大場秀章, 1983b; 岩槻邦男, 1992.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
0	0	0	1	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

D



(執筆: 加藤英寿・大場秀章)

セイタカイワヒメワラビ

Hypolepis alpina

コバノイシカグマ科

小笠原諸島

EN

環境省

【形態・生態】

常緑性シダ。長く匍匐した根茎から、直径 10 ～ 15mm の葉柄を直立し、葉身は 3 回羽状複生で長さ 70cm 以上になり、粘毛を密につける。孢子嚢群は円形。

【分布の概要】

小笠原諸島、伊豆諸島、本州（静岡）、四国、九州、南西諸島；台湾、東南アジア

【小笠原諸島における生育環境】

南硫黄島山頂のやや開けた所に群生する。1927 年に父島で採集された標本があるが、現在は見られない。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

滅多に人が訪れることが出来ない場所に自生するため、特に保全上の留意点はない。

【関連文献】

田川基二, 1983; 岩槻邦男, 1992; Ohba, H., 1971.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
0	0	1	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

D

No image

(執筆者：加藤英寿・大場秀章)

ムニンエダウチホングウシダ

Lindsaea repanda

ホングウシダ科

小笠原諸島

VU

環境省

VU

【形態・生態】

常緑性シダ。根茎は短く匍匐し、葉を束生する。葉柄は長さ 8 ～ 22cm で、基部は黒褐色、上部は褐色。葉身は 2 回羽状複葉で長さ 8 ～ 13cm、小羽片の縁はほとんど切れ込まない。孢子嚢群は小羽片の上縁に連なってつくが、それが切れ切れになる点で、よく似るシンエダウチホングウシダ *L. orbiculata* var. *commixta* と区別される。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生育環境】

常緑樹林の林床に生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地の乾燥化や外来植物による被圧に注意することが望ましい。

【関連文献】

Ohba, H., 1971; 岩槻邦男, 1992; 豊田武司 (編), 2003.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
1	4	4	3	0	0	1

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	4	0	0

判定基準

E + ACD



(執筆者：加藤英寿・大場秀章)

スキヤクジャク

Adiantum diaphanum

ホウライシダ科

小笠原諸島

CR

環境省

NT

【形態・生態】

常緑性シダ。根茎は短く、直立から斜上し、葉を束生する。葉柄は光沢のある暗褐色から黒色で長さ 6～20cm、基部に鱗片がある。葉身は単羽状または 2 回羽状で長さ 6～15cm、小葉の表面に毛をまばらにつけるが、羽軸は無毛。胞子嚢群は円形で、深い切れ込みの底につく。

【分布の概要】

小笠原諸島、九州、南西諸島；東南アジア、オセアニア

【小笠原諸島における生育環境】

林内の湿った地上や岩上に生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地の乾燥化や外来植物による被圧に注意することが望ましい。

【関連文献】

Ohba, H., 1971; 田川基二, 1983; 岩槻邦男, 1992.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
1	1	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	1	0	0

判定基準

ACD



© 東京大学植物標本室 (TI)

(執筆: 加藤英寿・大場秀章)

イワホウライシダ ※備考 (p. 300)

Adiantum ogasawarensense

小笠原諸島

VU

環境省

VU

【形態・生態】

常緑性シダ。根茎はやや短く匍匐し、葉を束生する。葉柄は細く、光沢のある黒紫色で長さ約 10cm。葉身は 2 回羽状で長さ 7～8cm、無毛。胞子嚢群は小羽片に 1～10 個つく。小笠原の固有種で、世界的に広く分布するホウライシダ *A. capillus-veneris* に近縁である。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生育環境】

湿った岩上や崖地などに生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地の乾燥化や外来植物による被圧に注意することが望ましい。

【関連文献】

Ohba, H., 1971; 岩槻邦男, 1992; 豊田武司 (編), 2003.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
4	2	2	1	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	4	0

判定基準

D



(執筆: 加藤英寿・大場秀章)

ヒメシシラン

Vittaria ensiformis

シシラン科

小笠原諸島

CR

環境省

VU

【形態・生態】

常緑性シダ。根茎は短く匍匐し、暗褐色の鱗片が密生しており、細長い葉が下垂する。葉身は線状で、長さ8～30cm、幅2.5～6mm、中肋はかすかに見えるが、葉脈は見られない。孢子嚢群は葉の縁の溝にできる。樹幹などに着生する。

【分布の概要】

小笠原諸島、南西諸島；旧世界の熱帯

【小笠原諸島における生育環境】

湿った岩上や樹幹などに着生する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地の乾燥化や外来植物による被圧に注意することが望ましい。

【関連文献】

Ohba, H., 1971; 倉田悟・中池敏之(編), 1987; 岩槻邦男, 1992.



© 東京大学植物標本室 (TI)

(執筆: 加藤英寿・大場秀章)

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
0	1	0	0	0	0	3

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	1

判定基準

E+ACD

ヒメタニワタリ

Asplenium cardiophyllum

チャセンシダ科

小笠原諸島

CR

環境省

CR

【形態・生態】

常緑性シダ。根茎は岩上を這い、葉を束生する。葉柄は光沢のある赤紫色から茶色で、葉身は単葉で全縁、長卵形、紙質で基部以外は無毛、長さ約5cm。孢子嚢群は線形で、中肋付近から縁近くまでの間に約5～10対つける。

【分布の概要】

小笠原諸島、南西諸島；中国(海南島)

【小笠原諸島における生育環境】

石門の湿った石灰岩の上に生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

かつてアフリカマイマイの食害や園芸目的の採取によって激減したが、保護活動により回復が見られた。しかし現在、石門の崩落により、自生地が狭まりつつある。生育環境が特殊で自生地が局限されるため、生育株自体の保護に加え、生育環境の維持が望まれる。

【関連文献】

Ohba, H., 1971; 岩槻邦男, 1992; 豊田武司(編), 2003.

「現存する株数」別の情報数

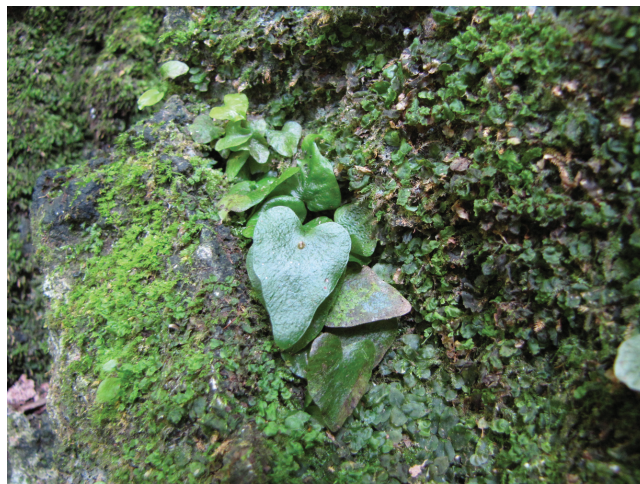
～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
0	0	1	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	1	0

判定基準

D



(執筆: 加藤英寿・大場秀章)

ナンゴクホウビシダ

Asplenium cataractarum

チャセンシダ科

小笠原諸島

EN

環境省

【形態・生態】

常緑性シダ。根茎は長く這い、1～数cm 間隔で葉をつける。葉身は単羽状で、長さ10～25cm、幅9cm 以下。羽片は鎌状で外側は狭くなり、孢子嚢群は羽片の縁寄りにつく。

【分布の概要】

小笠原諸島、伊豆諸島、本州（紀伊半島）、四国、九州、南西諸島；台湾、中国

【小笠原諸島における生育環境】

南・北硫黄島の山頂部雲霧林の林床や岩上に群生する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

滅多に人が訪れることが出来ない場所に自生するため、特に保全上の留意点はない。

【関連文献】

岩槻邦男，1992。



(執筆：加藤英寿・大場秀章)

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
0	2	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

D

ラハオシダ

Asplenium excisum

チャセンシダ科

小笠原諸島

CR

環境省

EN

【形態・生態】

常緑性シダ。根茎は長く這い、腹側のみに根を生じる。葉身は単羽状で、長さ30～40cm、幅7～18cm、羽片の幅は1cm 以上。孢子嚢群は線形。南西諸島やフィリピンなどに生育するウスイロホウビシダ *A. subnormale* によく似るが、葉がより大きくで、群生することがないことなどで区別される。

【分布の概要】

小笠原諸島、南西諸島；台湾などの旧世界の熱帯

【小笠原諸島における生育環境】

南硫黄島の山頂部雲霧林の岩上や樹幹の根元近くに着生する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

滅多に人が訪れることが出来ない場所に自生するため、特に保全上の留意点はない。

【関連文献】

Ohba, H., 1971; 倉田悟・中池敏之（編），1981；岩槻邦男，1992。

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
0	1	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	1	0	0

判定基準

ACD

No image

(執筆：加藤英寿・大場秀章)

ナンカイシダ

Asplenium micantifrons

チャセンシダ科

小笠原諸島



環境省



【形態・生態】

常緑性シダ。根茎は長く這う。葉柄は暗紫色で無毛、長さ約 20cm、葉身は単羽状複生で葉柄より長く、長さ約 25cm。側羽片は 15 対以上と多く、基部はくさび形で先端は尾状、縁は深く切れ込む。孢子嚢群は羽軸の近くから斜上する。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生育環境】

南・北硫黄島の山頂部雲霧林の樹幹に着生する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

滅多に人が訪れることが出来ない場所に自生するため、特に保全上の留意点はない。

【関連文献】

Ohba, H., 1971; 倉田悟・中池敏之 (編), 1985; 岩槻邦男, 1992.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
0	0	1	1	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	1	0

判定基準

E



(執筆: 加藤英寿・大場秀章)

ムニンシダ

Asplenium polyodon

チャセンシダ科

小笠原諸島



環境省



【形態・生態】

常緑性シダ。根茎は短く斜上する。葉柄は暗紫色で無毛、長さ約 20cm。葉身は単羽状複生で長さ 30cm 内外、側羽片は 2～15 対、基部はくさび形で非対称。孢子嚢群は線形で脈に平行する。

【分布の概要】

小笠原諸島; 台湾、ポリネシアからマダガスカル

【小笠原諸島における生育環境】

やや湿った岩上に着生する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地の乾燥化や外来植物による被圧に注意することが望ましい。

【関連文献】

Ohba, H., 1971; 倉田悟・中池敏之 (編), 1981; 岩槻邦男, 1992.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
3	3	1	1	0	0	2

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	4	1	1

判定基準

E + ACD



(執筆: 加藤英寿・大場秀章)

オトメシダ ※備考 (p.300)

Asplenium tenerum

チャセンシダ科

小笠原諸島



環境省



【形態・生態】

常緑性シダ。根茎は短く、葉柄は暗緑色で長さ 15cm 以下、葉身は単羽状複生で長さ約 30cm。側羽片は約 20 対で長楕円形、基部には上側に耳片があり、規則的な鋸歯がある。胞子嚢群は脈に沿ってつく。

【分布の概要】

小笠原諸島、南西諸島；東南アジアからポリネシア

【小笠原諸島における生育環境】

湿った林床や岩上に生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地の乾燥化や外来植物による被圧に注意することが望ましい。

【関連文献】

Ohba, H., 1971; 倉田悟・中池敏之 (編), 1981; 岩槻邦男, 1992.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
0	0	1	0	1	0	2

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	1	0

判定基準

E



(執筆: 加藤英寿・大場秀章)

アツイタ

Elaphoglossum yoshinagae

ツルキジノオ科

小笠原諸島



環境省



【形態・生態】

常緑性シダ。根茎は短く這い、褐色で膜質の鱗片が密に覆う。葉身は単葉で全縁、長楕円状披針形で先端が鋭角的になり、長さ 10～30cm、幅約 5cm。葉質は革質でやや厚い。胞子葉は栄養葉とほぼ同長で、裏面は胞子嚢で覆われる。

【分布の概要】

小笠原諸島、伊豆諸島、本州(紀伊半島)、四国、九州、南西諸島；台湾、東南アジア

【小笠原諸島における生育環境】

湿った樹幹や岩上に着生する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地の乾燥化や外来植物による被圧に注意することが望ましい。

【関連文献】

田川基二, 1983; 岩槻邦男, 1992.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
0	0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

ACD



(執筆: 加藤英寿・大場秀章)

オガサワラツルキノオ

※備考 (p. 300)

Lomariopsis boninensis

ツルキノオ科

小笠原諸島

NT

環境省

VU

【形態・生態】

常緑性シダ。根茎は茶褐色の鱗片をつけ、長く這い、樹幹をよじ登る。葉身は単羽状で長さ 15～18cm。栄養葉の側羽片は 3～6 対で長さ 15～18cm、幅約 1.5cm。孢子葉の側羽片は 10 対ほどで線形、長さ 15cm、幅約 2mm で、裏面は中肋以外、孢子嚢で覆われる。小笠原の固有種で、南西諸島、台湾、フィリピンからマレーシアにかけて広く分布するツルキノオ *L. spectabilis* に近縁で、同種とする見解もある。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生育環境】

母島に多く自生し、父島には稀である。薄暗い林内の岩上や樹幹に這い上がる。湿潤な地表にも群生することもある。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地の乾燥化や外来植物による被圧に注意することが望ましい。

【関連文献】

Ohba, H., 1971; 岩槻邦男, 1992.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
1	0	1	1	1	0	4

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	3	0

判定基準

E



(執筆者: 加藤英寿・大場秀章)

コキンモウイノデ

※備考 (p. 300)

Ctenitis microlepigera

オシダ科

小笠原諸島

EN

環境省

EN

【形態・生態】

常緑性シダ。葉柄基部の鱗片は長さ 12mm 以下で軟らかい。葉身は 2～3 回羽状深裂、中軸の鱗片は濃褐色で細長く、長さ 2～3mm。孢子嚢群は裂片の縁付近につく。小笠原の固有種で、南西諸島以西に広く分布するホラカグマ *C. eatonii* に近縁である。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生育環境】

母島のみに自生し、樹林の湿った岩上に生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地の乾燥化や外来植物による被圧に注意することが望ましい。

【関連文献】

Ohba, H., 1971; 岩槻邦男, 1992.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
0	0	0	1	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	1	0	0

判定基準

E+ACD



(執筆者: 加藤英寿・大場秀章)

チチジマベニシダ

Dryopteris insularis var. *chichisimensis*

オシダ科

小笠原諸島



環境省

【形態・生態】

常緑性シダ。葉柄はやや長い。葉身は3回羽状深裂、孢子嚢群は葉の裏面全体につき、孢子嚢群のついた羽片は縮まない。包膜の縁に多細胞の毛状突起がある。

【分布の概要】

小笠原諸島、伊豆諸島

【小笠原諸島における生育環境】

日当たりの良い傾斜地や崖に生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地の乾燥化や外来植物による被圧に注意することが望ましい。

【関連文献】

Ohba, H., 1971; 岩槻邦男, 1992.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
1	1	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	1	1	0	0

判定基準

ACD



© 東京大学
植物標本室 (TI)

(執筆: 加藤英寿・大場秀章)

ムニンベニシダ

Dryopteris insularis var. *insularis*

オシダ科

小笠原諸島



環境省



【形態・生態】

常緑性シダ。根茎は短く、斜上し塊状となり、高さ50～60cmになる葉を3～6枚束生する。葉柄は茶褐色で長さ20～35cm。葉身は3回羽状深裂。最下羽片の下側の小羽片は大きい。孢子嚢群は葉の裏面半分より上の羽片につき、包膜の縁に腺状突起がある。孢子嚢群のついた羽片は多少縮む。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生育環境】

日の当たる谷筋に生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地の乾燥化や外来植物による被圧に注意することが望ましい。

【関連文献】

Ohba, H., 1971; 岩槻邦男, 1992; 豊田武司 (編), 2003.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
0	1	1	0	0	0	2

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	2	0	0

判定基準

E



(執筆: 加藤英寿・大場秀章)

オオホシダ, ムニンミゾシダ ※備考 (p.

Thelypteris boninensis

ヒメシダ科

小笠原諸島

NT

環境省

NT

【形態・生態】

常緑性シダ。根茎は短く、斜上または横に這う。葉柄は全体に密に鱗片がある。葉身は単羽状深裂で下部の羽片はしだいに短くなり、長さ 1 ~ 1.3m、幅 30 ~ 50cm。孢子嚢群は円形から楕円形で、中肋と縁との間につき、包膜はない。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生育環境】

父島と母島の谷筋の湿った場所に生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地の乾燥化や外来植物による被圧に注意することが望ましい。

【関連文献】

Ohba, H., 1971; 岩槻邦男, 1992; 豊田武司 (編), 2003.

「現存する株数」別の情報数

~ 10	~ 50	~ 100	~ 1000	~ 10000	~ 100000	不明
2	0	6	1	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

~ 1/100	~ 1/10	~ 1/2	~ 1	~	絶滅および未発見
0	0	0	6	1	0

判定基準

E



© 東京大学
植物標本室 (TI)

(執筆: 加藤英寿・大場秀章)

ホソバシケチシダ ※備考 (p. 300)

Cornopteris banajaoensis

イワデンド科

小笠原諸島

EN

環境省

EN

【形態・生態】

常緑性シダ。根茎は短く、直立から斜上し、6 枚前後の葉を束生する。葉柄は緑色で長さ 20 ~ 60cm、葉身は長さ 20 ~ 60cm、幅 15 ~ 40cm で 3 回羽状深裂。最下羽片の孢子嚢群は円形から楕円形で中肋付近につき、包膜はない。

【分布の概要】

小笠原諸島、九州; 中国、東南アジア

【小笠原諸島における生育環境】

南硫黄島の山頂部雲霧林内に生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

滅多に人が訪れることが出来ない場所に自生するため、特に保全上の留意点はない。

【関連文献】

大場秀章, 1982a; 倉田悟・中池敏之 (編), 1989; 岩槻邦男, 1992.

「現存する株数」別の情報数

~ 10	~ 50	~ 100	~ 1000	~ 10000	~ 100000	不明
0	0	0	1	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

~ 1/100	~ 1/10	~ 1/2	~ 1	~	絶滅および未発見
0	0	0	0	1	0

判定基準

E



© 東京大学
植物標本室 (TI)

(執筆: 加藤英寿・大場秀章)

シマクジャク ※備考 (p. 300)

Diplazium longicarpum

イワデンド科

小笠原諸島



環境省



【形態・生態】

常緑性シダ。根茎は直立する。葉柄は基部が黒色で先端に向かうにつれ緑色になる。葉は革質状草質で、長さ 40～80cm、葉身は単羽状複生で独立した頂羽片はなく、側羽片の縁には浅い波状の鋸歯がある。胞子嚢群は中肋付近から葉縁近くまで伸び、線形。小笠原の固有種で、ノコギリシダ *D. wicheriae* に似るが、南西諸島、中国、インドシナに分布するホコザキノコギリシダ *D. yaoshanense* との類似性も指摘されている。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生育環境】

母島にのみ自生し、樹林の陰湿な林床に生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地の乾燥化や外来植物による被圧に注意することが望ましい。

【関連文献】

岩槻邦男, 1992; 豊田武司 (編), 2003.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
0	2	0	3	0	0	1

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	4	1	0

判定基準

E



(執筆: 加藤英寿・大場秀章)

ムニンミドリシダ

Diplazium subtripinnatum

イワデンド科

小笠原諸島



環境省



【形態・生態】

常緑性シダ。葉柄は長さ約 30cm、わら色で基部は暗色となる。葉身は 3 回羽状複生、小羽片の裂片は軸に直角につき、先は丸い。小笠原の固有種で、ヒカゲワラビ *D. chinense* に似るが、葉柄がわら色であることなどにより区別される。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生育環境】

陰湿な林床や岩上に生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地の乾燥化や外来植物による被圧に注意することが望ましい。

【関連文献】

Ohba, H., 1971; 岩槻邦男, 1992.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
0	1	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	1	0

判定基準

E



(執筆: 加藤英寿・大場秀章)

オキノクリハラン

Leptochilus decurrens

ウラボシ科

小笠原諸島

CR

環境省

CR

【形態・生態】

常緑性シダ。根茎は長く這い、葉柄は長さ約 15cm、栄養葉の葉身は単葉で長さ約 30cm、幅 10cm 以下で縁は全縁か波状、孢子葉の葉身は細長く、裏面は孢子嚢で覆われる。

【分布の概要】

小笠原諸島；マレーシアからヒマラヤ、ポリネシア

【小笠原諸島における生育環境】

樹林の陰湿な岩上に生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地の乾燥化や外来植物による被圧に注意することが望ましい。

【関連文献】

Ohba, H., 1971; 倉田悟・中池敏之(編), 1981;
岩槻邦男, 1992.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
0	0	1	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	1	0	0

判定基準

E



(執筆: 加藤英寿・大場秀章)

ムニンサジラン

Loxogramme boninensis

ウラボシ科

小笠原諸島

VU

環境省

VU

【形態・生態】

常緑性シダ。根茎は径 1.5mm 以上、葉は単葉で革質、葉柄は長さ 2～10cm、葉身は狭披針形で鋭頭、長さ 10cm 以上、幅 1～2cm で全縁。孢子嚢群は斜めに葉縁近くまで伸びる。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生育環境】

樹林の樹幹や岩上に生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地の乾燥化や外来植物による被圧に注意することが望ましい。

【関連文献】

Ohba, H., 1971; 岩槻邦男, 1992.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
3	5	1	1	0	0	1

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	4	1	0

判定基準

E



(執筆: 加藤英寿・大場秀章)

オオクリハラン、ムニンクリハラン

Microsorium fortunei

ウラボシ科

小笠原諸島



環境省



【形態・生態】

常緑性シダ。根茎は長く這い、葉は単葉で薄い革質、葉柄は長さ10～20cm、葉身は披針形で鋭尖頭、基部は円形、長さ20～40cm、幅3～5cmで全縁。胞子嚢群は円形で径2mm以下、葉の裏に散在する。

【分布の概要】

小笠原諸島、南西諸島；台湾、中国

【小笠原諸島における生育環境】

樹林の陰湿な岩上や樹幹に着生する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地の乾燥化や外来植物による被圧に注意することが望ましい。

【関連文献】

Ohba, H., 1971; 岩槻邦男, 1992.



(執筆：加藤英寿・大場秀章)

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
1	1	0	2	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	2	0	0

判定基準

E + ACD

ハハジマヌカボシ

Microsorium superficiale

ウラボシ科

小笠原諸島



環境省

【形態・生態】

常緑性シダ。根茎は長く這い、葉は単葉で薄い革質、葉柄は長さ10～20cm、葉身は披針形で鋭尖頭、基部は円形、長さ20～40cm、幅3～5cmで全縁。胞子嚢群は円形で径2mm以下、葉の裏に散在する。

【分布の概要】

小笠原諸島；マレーシアからヒマラヤ

【小笠原諸島における生育環境】

樹林の岩上から樹幹に生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地の乾燥化や外来植物による被圧に注意することが望ましい。

【関連文献】

Ohba, H., 1971; 岩槻邦男, 1992; 豊田武司 (編), 2003.



(執筆：加藤英寿・大場秀章)

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
2	1	1	1	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	3	0	0

判定基準

E

ナガバコウラボシ

※備考 (p. 300)

Grammitis tuyamae

ヒメウラボシ科

小笠原諸島

EN

環境省

EN

【形態・生態】

常緑性シダ。根茎は短く斜上し、1～5枚の葉を束生する。葉は単葉で、葉柄は長さ2cm以下、葉身は線状披針形から狭披針形で、長さ5～8cm、幅5～6mmで全縁、両面に毛が多い。孢子嚢群は円形から楕円形で中肋寄りに1列に並ぶ。本州、四国、九州に分布し、低山の溪流沿いに生育するヒロハヒメウラボシ *G. nipponica* に似ている。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生育環境】

南・北硫黄島の山頂部雲霧林内の樹幹に着生する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

滅多に人が訪れることが出来ない場所に自生するため、特に保全上の留意点はない。

【関連文献】

Ohba, H., 1971; 大場秀章, 1982a; 倉田悟・中池敏之 (編), 1983; 岩槻邦男, 1992.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
0	1	2	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	2	0	0

判定基準

ACD



(執筆: 加藤英寿・大場秀章)

シマムロ

Juniperus taxifolia

ヒノキ科

小笠原諸島

VU

環境省

VU

【形態・生態】

常緑低木～小高木。岩石地のように土壌の浅い場所では匍匐性低木となり、風が弱く土壌が深い場所では直立性の小高木となる。葉は針葉で3輪生し、長さ5～10mm、表面に白色の気孔帯が2条ある。雌雄異株。開花は早春、結実はや夏。伊豆諸島と南西諸島には変種オキナワハイネズ (オオシマハイネズ) *J. taxifolia* var. *lutchuensis* が分布する。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生育環境】

山地平坦面に見られる風衝地や低木林に生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

材に樹脂を多く含むため、かつては焚き付け用に乱伐された。現在では、ノヤギの食害や外来植物の被圧による影響が懸念される。

【関連文献】

佐竹義輔ら (編), 1989a; 豊田武司 (編), 2003.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
8	9	6	2	0	0	4

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	23	0	1

判定基準

ACD



(執筆: 加藤英寿・大場秀章)

トキワイヌビワ

Ficus boninsimae

クワ科

小笠原諸島



環境省

【形態・生態】

常緑低木～小高木。枝の切断面から乳液を出す。葉柄基部に線状披針形の托葉が残る。葉柄は長さ1～2cm、葉身は楕円形から卵形で長さ5～12cm、幅2～6cm、裏表とも無毛。葉腋に径7～8mmの球形の花囊をつける。花囊の柄は無毛。花囊は無毛または白毛がまばらに生え、熟すと紫褐色になる。雌雄異株で花囊は雌雄同形。近似種のオオトキワイヌビワとの区別点は、托葉が宿存することや、葉柄や主脈の枝分かれが多いことなどである。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生育環境】

日当たりの良い低木林や林縁に生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

ノヤギの食害や外来植物の被圧による影響が懸念される。

【関連文献】

佐竹義輔ら(編), 1989a; 豊田武司(編), 2003。

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
15	5	1	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	3	0	0

判定基準

E



(執筆: 加藤英寿・大場秀章)

オオヤマイチジク, イイダイヌビワ ※備考 (p. 300)

Ficus iidana

クワ科

小笠原諸島



環境省



【形態・生態】

常緑高木。別名イイダイヌビワ。枝の切断面から乳液を出す。葉身は卵状楕円形から卵円形で長さ10～25cm、幅7～25cm、表面は無毛、裏面は主脈に微毛が生える。葉腋に長さ15～25mmの楕円形または洋ナシ形の花囊をつける。花囊は柄に短い軟毛が密に生え、熟すと紫褐色になる。雌雄異株で花囊は雌雄同形。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生育環境】

山地のやや湿った林内に生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地の乾燥化や外来植物による被圧に注意することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら(編), 1989a; 豊田武司(編), 2003。

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
3	3	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
2	0	0	4	0	0

判定基準

ACD



(執筆: 加藤英寿・大場秀章)

オオトキワイヌビワ ※備考 (p. 300)

Ficus nishimurae

クワ科

小笠原諸島

VU

環境省

VU

【形態・生態】

常緑低木～小高木。枝の切断面から乳液を出す。トキワイヌビワに比べて枝が太く葉が大きくなり、托葉は早落性。葉柄は長さ 1.5 ～ 6cm、葉身は卵円形で長さ 5 ～ 12cm、幅 3 ～ 11cm。葉腋に径 8 ～ 10mm の球形の花囊をつける。雌雄異株で花囊は雌雄同形。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生育環境】

低木林や林縁に生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

ノヤギの食害や外来植物の被圧による影響が懸念される。

【関連文献】

佐竹義輔ら (編), 1989a; 豊田武司 (編), 2003.



(執筆: 加藤英寿・大場秀章)

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
17	8	1	2	0	0	5

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	20	2	0

判定基準

ACD

オガサワラグワ ※備考 (p. 300)

Morus boninensis

クワ科

小笠原諸島

CR

環境省

CR

【形態・生態】

落葉高木。葉は互生し、厚く広卵形で、長さ 8 ～ 25cm、幅 7 ～ 20cm、鋸歯は先が丸くとがらない。新芽が芽吹くとともに葉腋に尾状花序を出す。雌雄異株。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生育環境】

やや湿った樹林内に生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

外来植物のシマグワとの交雑による遺伝的かく乱が生じている。また結実状況も悪く、次世代の実生や稚樹が育っていない。生木の本数が限られているため、それらの保護が課題となっている。

【関連文献】

佐竹義輔ら (編), 1989a; 豊田武司 (編), 2003.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
11	3	0	0	0	0	3

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
4	4	0	5	0	3

判定基準

ACD



(執筆: 加藤英寿・大場秀章)

セキモンウライソウ

Procris boninensis

イラクサ科

小笠原諸島

CR

環境省

CR

【形態・生態】

多年草。茎は無毛で稜があり、基部は木質化し、地表を這いながら分枝して斜上する。葉は枝先に多くつき長楕円形から倒披針形で、鋸歯は先端に向かうにつれ明瞭になる。葉腋に淡緑色の小さな花序をつける。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生育環境】

母島石門の樹林内の石灰岩上に生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地が局限されるため、自生地の乾燥化や外来植物による被圧に注意することが望ましい。

【関連文献】

豊田武司 (編), 2003.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
0	0	1	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	1	0	0

判定基準

E



(執筆: 加藤英寿・大場秀章)

ムニンビャクダン

Santalum boninense

ビャクダン科

小笠原諸島

EN

環境省

EN

【形態・生態】

常緑半寄生低木。葉は対生し、楕円形、全縁で鈍頭、長さ3～7cmで、葉脈は主脈以外は不明瞭。4～6月に枝先に集散花序をつけ、花は淡黄色で芳香があり、長さ約5mm。結実は8月で、熟すと紅紫色になるが、稀である。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生育環境】

日当たりの良い尾根や斜面の低木林に生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

ノヤギによる食害や外来植物による被圧の影響に注意することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら (編), 1989a; 豊田武司 (編), 2003.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
3	5	2	1	0	0	1

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
2	0	0	8	0	0

判定基準

ACD



(執筆: 加藤英寿・大場秀章)